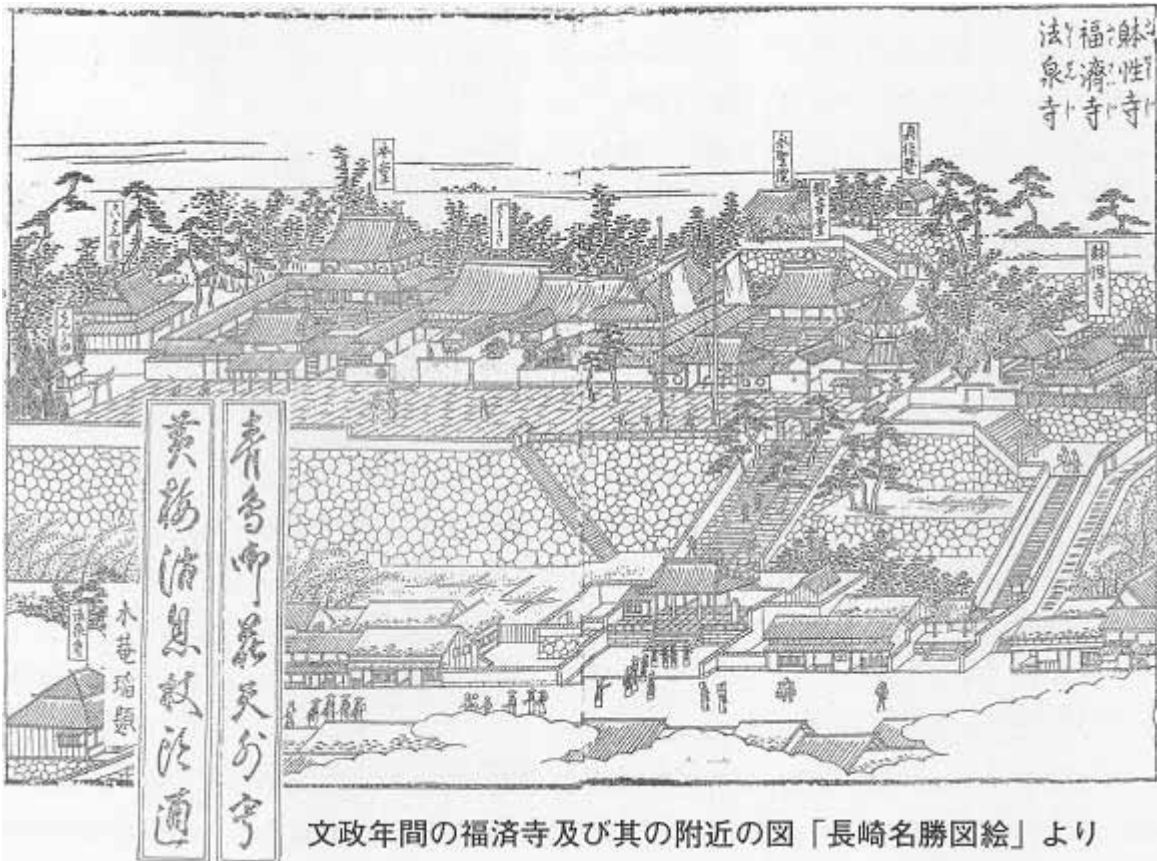


文化財めぐり

発行日 平成 17 年 12 月 7 日  
発行所 長崎市魚の町 5 - 1  
長崎市教育委員会  
生涯学習部文化財課  
TEL 8 2 9 - 1 1 9 3

唐寺・聖福寺と福濟寺の  
(唐僧墓地と唐通事・潁川家墓地)を訪ねて



日 時 平成 17 年 12 月 8 日 (木) 10 : 00 ~ 12 : 00  
コース 中町公園 (上段) ~ 観善寺の大クス ~ 聖福寺 ~  
福濟寺の唐僧墓地・唐通事潁川 (陳) 家墓地 ~ 解散  
主 催 長崎市教育委員会  
講 師 文化財サポーター 1 班

## 聖福寺大雄宝殿～県指定有形文化財

寺は京都・宇治にある黄檗山・万福寺の末寺である。長崎の鉄心道胖は幼少にして唐僧・木庵禅師に師事、名僧の誉れが高く、時の奉行や在留唐人有志の帰依を得るとともに鉄心の母方である唐通事・西村氏の財力援助等から延宝5年(1677)に聖福寺を開創した。そのため出身地別に壇越がいた唐三か寺(興福寺・崇福寺・福濟寺)とは創立の由来が異なっている。大雄宝殿は元禄10年(1697)建立されたが、後の改築の時には長崎奉行が援助している。現在の建物は正徳5年(1715)に再建されたもので、工匠(棟梁)は長崎の楠原兵右衛門。建築様式は和風を基調としており鉄心が修行した宇治の万福寺に倣って朱丹塗りを極端に避けているが、前廊部の黄檗天井や半扉の彫刻、そして基壇・勾欄等に黄檗様式が見られる。

## 聖福寺天王殿～県指定有形文化財

天王殿は長崎の他の黄檗寺院にはない形式の建物である。また、表は弥勒菩薩を、背面に韋馱天を祀っている。左右に門扉を設けて通り抜けの門にした天王殿は、中門としての位置を占めており、その配置は宇治・万福寺や長崎の福濟寺(原爆で焼失)と同じで、現在の長崎ではここだけに見られる。

棟札によれば宝永2年(1705)鉄心が財を募って建立した。建築様式は和風を基調とし半扉その他若干の黄檗建築の手法を取り入れ、扉などの局部に彩色を施す他はすべて素木のままである。堺の大工・藪本次兵衛ほか数人の手によって建造され、幾度かの修理を経て現在に至っている。

## 聖福寺山門～県指定有形文化財

棟梁は堺の藪本次兵衛で、堺で切込みをして元禄16年(1703)10月に竣工された。建築様式は和風を基調として三門三戸の門、平面は八脚門で屋根も特徴があり、黄檗山・万福寺総門や、萩の東光寺総門などの黄檗寺院には良く見られる造りである。これは鉄心が、長崎・三福寺の唐風建築より宇治・万福寺諸殿の様式を好んだためと思われる。扁額は「隠元禅師」筆のもので<「聖福禅寺」「寛文12壬子年」、1672年>とあるが、これはあらかじめ書いてもらっていたとされている。

## 聖福寺の梵鐘～市指定有形文化財

最初の梵鐘は元禄7年(1694)初代住持・鉄心道胖の時、唐通事・西村作兵次とその母が亡き、父の西村七平衛(鉄心の異父兄)の遺志をついで寄進されたものであった。鑄工の名は見えない。現存する梵鐘は享保2年(1717)2代住持・暁巖の時に改鑄の議が起こり、鑄物師・阿(安)山家三代目～安山弥兵衛国久が改鑄したものである。

梵鐘は寄進されたもので鉄心没後7年であったが、その音色はまさに音量豪壮で遠く郊外まで響くので俗に「鉄心の鐘」と呼んで人々は親しんだ。梵鐘の多くは戦時の供出で少なく、特に阿山家三代国久の作は聖福寺の梵鐘と青銅塔(市指定文化財)が違っているだけである。

## 聖福寺惜字亭～市指定有形文化財

惜字亭という名称は大変奥ゆかしい。中国では文字を書いた紙を大切にし、この習俗を惜字紙といわれている。この字紙を焼く施設を聖福寺では惜字亭と呼んでいる。これは寺院内の経文その他、不要な文書類を、赤レンガ積みで漆喰塗り、六角形の焼却炉で焼却するものである。築造は慶応2年(1866)7月とされている。赤レンガは安政5年(1858)頃、オランダ海軍技師士官によって製造法が伝授され、小菅修船場跡(国指定史跡)も、その赤レンガが使用されている。この惜字亭は中国人の信徒によって築造寄進された。

## 聖福寺石門～市指定有形文化財

背後の金比羅山にあった崇岳・神宮寺は江戸時代初期頃に栄えたが、その後盛衰を重ね、唐僧・木庵禅師が命名する無凡山神宮寺として明治の期を迎え、神仏分離令によって金比羅神社となった。この時、仏像仏具その仏寺を表す一切が除去破却された。その時境内にあった石門の中央要石には、唐僧・木庵禅師筆の「華蔵界」の文字が刻まれていた。鉄心道胖は唐僧・木庵禅師に随侍修行した由縁があり、明治19年(1886)にその石門を聖福寺が譲り受け現在地に移転したものである。こうしたアーチ式の石門は、江戸初期に中国からもたらされた形式で各地に残っている。聖福寺の石門は神宮寺が再興された享保10年(1725)以降の建造と推定されているが、神宮寺の「唯一の遺構」としても貴重である。

\*\*資料\*\*

清水寺・石門～明和8年(1771)9月の銘がある。大音寺開山碑前・石門～安永9年(1780)建碑 延命寺・石門～明治33年(1900)5月建立。他に～長崎では福濟寺・岩屋山神通寺の石門は既になくなっている。

## 観善寺の大クス～市指定天然記念物

向南山観善寺の山門をくぐり、石段を上りつめた左側の一隅にあるのが大クスである。地上9mばかりの部分から4本の大枝を出して美しい樹相であったが、先年やむを得ず大枝の一部を切り落としている。幹回り約8m、樹高約20m、支幹は多数の枝を出して樹冠を形づくっている。枝張りは東西25m・南北15mと大きく、樹勢も旺盛で豊かに枝葉を茂らせて市内にあるクスノキでは巨樹の1つとされている。(日本一：鹿児島蒲生の大クス、27.5m、23.3m・県一位：有明町 27m、13m)

## 福濟寺(黄檗宗・分紫山)

寛永5年(1628)明国泉州の唐僧・覚悔禅師が弟子の了然と覚意の二僧を伴って開山した。慶安2年(1649)には泉州人の唐僧・蘊謙禅師が重興を開山する。檀家は当初、泉州人が多く、後は漳州人の人々が檀家として多かった。しかし昭和20年(1945)寺院は原爆で焼失、それ以前は国宝建造物に指定されていた。今年秋に開館した長崎歴史文化博物館には当時の唐寺である福濟寺の復元模型が展示されている。この福濟寺が唐寺であったという面影を残すのは、裏山の唐僧墓地と頼川家の墓地だけである。

## 福濟寺の唐僧墓地～市指定史跡

この墓地は馬蹄形の壁に囲まれた中国風の墓地である。その石壁に、はめ込み型式の墓碑三基が並んでいる。向かって、右の墓碑は寛永5年(1628)長崎に渡来し、寺を開基した唐僧・覚悔禅師の墓地である。また弟子の唐僧・了然と覚意も併せて祀られている。中央の墓碑は重興開山唐僧・蘊謙禅師(延宝元年(1673)64歳で示寂)の墓地である。禅師の時に観音堂・仏殿・庫裡・大門等が完成したといわれる。左の墓碑は、2代住持で唐僧・慈岳禅師の墓地で、天和元年(1681)の大飢饉には率先して施粥を行った。元禄2年(1689)58歳示寂した。

## 福濟寺の唐通事頼川(陳)家の墓地～市指定史跡

陳沖一を祖先とする頼川家は唐通事界屈指の名門である。初代の陳道隆は福濟寺随一の大壇越であり、一の瀬橋をかけた。2代は31年間も大通事を務め、延宝6年(1678)悟真寺の梵鐘を寄進する。3代と4代目も唐通事目付を務め、そして5・6代目も唐通事を務めるほどの名門の家柄である。この墓地にある開祖陳沖一の墓碑は小さいが、2・4・5代目(いずれも夫妻)の墓碑は大きい(6代目以降の墓地は別の地にある)。この墓地は馬蹄形の石壁に囲まれた中国風の墓地である。またその昔、福濟寺が唐寺であったという面影を残しているのは、この寺院裏山にある唐僧墓地と頼川(陳)家墓地だけとなっている。



**聖福寺大雄宝殿（県指定有形文化財）**

延宝6年(1678)の創建で、正徳5年(1715)に改築。工匠は長崎の楠原与右衛門。屋根は肥前武雄産の施釉瓦を使用している。



**同大雄宝殿の扉**

桃をあしらった意匠が特徴的である。



**天王殿（県指定有形文化財）**

宝永2年(1705)の建立。護法堂、弥勒門、中門などと呼称。棟梁は山門と同じ堺の人である。



**惜字亭（市指定有形文化財）**

慶応2年(1866)の築造。寺内の不要文書類を焼却するための炉。六角形の煉瓦造り漆喰塗りである。



**山門（県指定有形文化財）**

元禄16年(1703)に建立。堺の豪商・京屋宗休が寄進。堺で木材を切り組み、海路で長崎まで運搬。三門とも記され、過去・現在・未来の三世を解脱する門とされる。



**石門（市指定有形文化財）**

金毘羅山にあった崇岳神宮寺は廃仏棄釈で金毘羅神社となり、境内にあった石門を明治19年(1886)に聖福寺が譲り受け、現在地に移築した。